

シニアパワー部会 論点整理表

委員の意見

人生いろいろ

地域は「どこの人が定年する」などの情報を探している。ということは、地域をうまく運営していくためのパワーやノウハウ、人手が不足しているのである。しかし、そういう人は定年しても本当はそういうことと関係なく、俗な言葉で言えばぶらぶらすることを目指していたりする。そういう人たちを対象に、地域で活動するようお願いしたり、仕事を紹介したりすることがよいのかよくわからない。シニア世代は講座などシニアのための情報を本当に欲しがっているのが聞いてみたい。シニア世代全部を包括するのは難しい。シニアでも現役で働いている人はたくさんいる。先ほど意見があったように、女性は既に地域でネットワークをつくっていて暇で困る人はあまりいない。

60歳で定年したから急にすることがないという人は意外と少ないと思う。企業を定年になった人も8、9割は週に3日ぐらい仕事をしている。

65歳から上の世代は規則正しい質素な生活をしてきた人なので、元気でまちのためにいろいろ活動している。しかし、50～62歳くらいの人は自分の健康、年金のことなどがあるので、まちのために何かすることは優先順位が高くない。先ほど委員の意見でもあったが、65歳くらいからがシニアで、50～62歳くらいの人はやることがほかにもあると思う。

シニア世代にしてみれば、あまり行きたくないチームからスカウトされているようなものである。行政の立場からすれば、シニア世代にパワーが余っていきそうだから活用しようという考えがあるのだろうが、シニア世代が本当にそれ求めているかどうかはわからない。委員の意見でもあったが、地域活動に参加したいがどうすればよいかわからなかったり、二の足を踏んでいたりする人などに絞って、有効に地域で活用しようということだろう。

アイディア勝負

男性で今は地域参加していないが、何か参加したいというニーズがある人に対し、地域での取り組みを紹介したり、どういふ分野の活動がいいかを指導したり、どこの団体がこういう人を求めているという情報を提供したり、あるいはリーダーになりたい人がいたらリーダー研修の受講を勧めたりする。そのように効率的な場を用意して、川崎区の中で10人でも100人でも参加してくれば、スタートとしては大成功だと思っている。

中学校区の地域教育会議では比較的町内会に關係していない若手が中心になって活動を始めている。ところが、放っておいたため自然消滅的に活動が縮小してきている。何か再活性化するような対策を講じるのも一つの方法である。

民生委員、保護司などの成り手がいないが、民生委員、保護司だけで成り手を探しているからである。公募のように地域で呼びかければたくさん出てくる。団塊の世代はパソコンで生きてきたような人たちがばかりなので、ホームページなどで広報した方が、紙媒体より伝達力がある。

町内会、文化団体、体育指導員など多くの団体で、新しい人が入ってこないために高齢化している。そういうところには新しい人は入りづらい。新しい人たちが自分たちで会をつくれば集まる。以前にあった成人学校のような市民館の行事などで新しいアイデアを出していかないと、人は集まらない。

方向性としてはシニア世代に押し付けるような方法ではなく、どうすれば関心を持ってもらえるかを考えていくのだと思う。新しいマンションが建設されている、単身世帯が多いなど区の特徴をとらえ、その人たちが地域にどうかかわってくれるのか。行政にはシニア世代を地域に呼び込むような取り組みを実施して欲しい。

川崎区区民会議では独自の提案、助言、忠告などで、何かこちらで仕掛けをつくることができればよいと思う。例えば、自然発生的にシニア世代のパワーが集まり、何かをするように演出をしたり、あるいは発生したものを活性化させるために仕掛けたりするといったことである。

当たり前の提案ではない特色あることができるとよい。川崎区のシニア世代は元気ですごいということが表現できるとよい。

高齢者は自分が楽しいことしかしないと。これまで苦しいことを多くしてきたので、居心地がよかったり、人との出会いがあったり、仲間づくりも含めてワイワイ、ガヤガヤできるようないい環境が増えたとよい。

純然たる遊びではだめである。登校拒否の子を集めた学校をどこかの学校の空き教室を使って、団塊の世代の人たちに力になってもらい設置したらどうか。

受け皿づくりが必要

男性は仕事一筋で来た人ほど定年で自分の存在感を失う人が結構いる。そういう人もいろいろノウハウを持っているので、それを地域で生かせないだろうか。人としているものも身につけており、大きな財産だと思うので、そういう人を生かせる地域、そういう人が生き生きしているまちづくりができればよい。それには受け皿がもう少し必要なので、町内会で元気なシニア世代の受け皿をつくるようなことができないか。

機会があればボランティア活動や地域福祉活動に参加してみたいという人たちに対し、こういう受け皿ができたから参加して欲しいという呼びかけをすることが審議の中心になるのではないだろうか。そういう人が来るか、来ないかは別だが、そういう機会を設けて実施してみてもどうか。

これから地域で活動を始めたいという人が集まって、その人たちの活動希望を聞き、それならばあなたの特技を生かして活動する場所がこういうところにあるので、どこかに登録したらどうかというようなことをしてもいい。

高齢者の特徴は人の役に立ちたいという地域貢献意欲がとて高いことだが、その場が探せない、見つからないのである。今まで家族、会社などのために一生懸命働いてきたが、ボランティア活動というのは意外としてこなかった。やはりそういう受け皿づくりが必要だ。

川崎区に住んでいる人たちのふるさと意識や縦と横のつながりをどのように広げていくかを考える必要がある。新しく住民になった人がどのように地域にかかわるかということでは、子どもを通じてだったり、清掃活動に参加したりといういろいろあると思うが、具体的にはどうすればよいかとなると難しい。

町内会で何かの役職を引き受けると目立ってしまい、すぐに別の大きな役職も依頼されるので、なかなか男性で地域に出ていく人がいない。しかし、子供会の野球の応援や公園掃除など大勢で実施するものには出ていく。意気投合した仲間や目的を持ったサークルの方が動きやすい。

シニアに対して地域に参加するというライフスタイルもあると提案したとしても、町内会の仕事をしたい欲しいと言おうと、抵抗を感じるシニアが多いと思う。だから、新しいタイプのコミュニティを考える必要がある。

町内会・自治会だけではなく、もっといろいろな団体や個人が連携して地域コミュニティを充実する方向にきているのではないかと。

町内会の中には高齢化して大変で、お祭りの支度なんてとてできないというところもある。若い人たちに参加して欲しいという気持ちがありながら、それが表面に出てきていないのが現実である。行政としては地域の核である町内会・自治会を活性化させることもコミュニティの新しい形成の一つだと思う。

シニアパワー

シニア世代は世の中を動かしてきた熱い世代だと思う。戦前生まれの人とは価値観も大分違うし、定年といっても、むしろ今までの高齢者のイメージを相当変える人々ではないかという期待感を持っている。町内会や地域教育会議など既存組織が必ずしも活性化していないという意見があったが、そういう人が新たに加わることで何か変えるのではないかと。

高齢者には若い世代に継承すべきものがたくさんある。ものづくりだけでなく、いろいろな遊びも含めて、核家族化で途絶えてしまったことを地域の人に教えるということもある。ぜひそういうシニア世代の持っている力を地域で発揮して欲しい。

昔、青年の主張というテレビ番組があったが、シニアの主張があってもいいと思う。そういうイベントを実施できるかは別として、人口の20%を超える一大勢力である高齢者が、生き生きライフを謳歌しているまちであって欲しいと思う。そうすれば、恐らく町内会も変わるだろうし、いろいろなところがだんだん変わっていくと思う。元氣なシニアがたくさんいて楽しくやっていたら、参加したいと思う。楽しくなければだめである。

取り組みの方向性(案)

多彩なメニューで地域と
触れ合うきっかけをつくる

それぞれのペースで無理
なく参加してもらう

(区民)お祭り、防犯パトロール、
ゴルフ大会などへの
勧誘
(行政)地域デビュー支援

参加する人も受け入れ側
も広いところで柔軟に

(シニア)郷に入って郷に従え
まずは地域を知る
(地域)長い目で受け入れる
活動をよりオープンに
(行政)郷土史講座の開催

シニアの力が集まれば
地域の課題も解決

(区民)能力活用の場の提供
(行政)市民活動支援

地域
コミュニティの
充実